



自見はなこさん

Jimi Hanako

自民党参議院議員、小児科専門医・内科認定医

1976年長崎県生まれ。98年筑波大卒業後、2004年東海大卒。07年東大小児科入局、同附属病院、青梅市立総合病院、虎の門病院などを経て、10年国会議員秘書。15年自民党参議院比例区支部長、16年参院選比例区から立候補し、当選。7月より現職



「医療職を働く女性のロールモデルにしたい」

7月の参議院議員選挙に自民党から日本医師連盟組織内候補として立候補し、当選を果たした。父は郵政相などを務めた自見庄三郎氏。30年にわたる両親の苦勞を目の当たりにし、政治の道へは進まないと決めていたが、当直中に受けた1本の電話が運命を変えた。電話の相手は日本にホームステイしている中学生の娘を持つ米国人の母親。国際電話で腹痛を訴える娘の体調を案じ、電話をかけてきたという。「水分摂取の方法など簡単なアドバイスをする『自分の加入している医療保険では医師と直接こんな話はできない。日本は何て素敵な国なの。God bless Japan!』と泣きながらお礼を言われ、国民皆保険制度がないというのはこういうことなのかと衝撃を受けました」

選挙戦では皆保険堅持と発展を政策の柱に据え



「小児科医として経験した現場の声を政策に生かしていきたいですね」

た。自見さんが重要視するのは公衆衛生的視点を踏まえた予防の徹底とかかりつけ医の役割強化。「例えばかかりつけ医に3年以上通って高血圧や糖尿病の数値が基準内に抑えられた場合に、かかりつけ医にインセンティブが付与される仕組みの導入などについて、効果を検証しながら進めていく必要があると思います」

一方、財源論に話が及ぶと“アベノミクス”の掲げる「経済の好循環」に向け、「子どもを産むことが喜びにつながる社会の形成を本気で目指す必要がある」と指摘。「一般に社会保障費は負担とされますが、女性がいきいきと働ける環境を整備することで税収増にもつながり、医療費に回す財源が生まれる。これが好循環の姿の1つです」

小児科医として専門医資格を取得するなどキャリアを積んできた。その経験から女性の職場環境の改善が急務と強調する。「資格職の医療職でさえ苦しんでいます。女性医師が妊娠するとまず職場で謝らなくてはいけない現状を変えたい。環境改善には事業主の理解が不可欠ですが、例えば医療機関は利益率1%程度の厳しい状況で運営しているので、持ち出しにならないような仕組みを国として考えなくてはなりません。まずは我々医療職が働く女性のロールモデルとなれるよう、立法院の一員として後押ししていきたいですね」